

令和 3 年 5 月 26 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K02477

研究課題名(和文) 赤ちゃんの体臭：心理学、官能評価学、生理学、分析化学的研究

研究課題名(英文) Body Odors of infants: chemical and psychophysiological examination

研究代表者

岡本 雅子 (Okamoto, Masako)

東京大学・大学院農学生命科学研究科(農学部)・特任准教授

研究者番号：00391201

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：養育は哺乳類において種の存続に必須の行動である。養育行動は、養育を与える大人の側が注目されがちだが、養育を受ける子の側も、大人から「可愛い」という気持ちを引き出し、養育行動を促進する素因を持つと考えられている。これまでヒトでは、乳幼児特有の容貌や声など、視聴覚や触覚を介した信号に養育を促進する効果があることが示されてきた。本研究では匂いに着目し、乳幼児期特有の体臭成分を分析すると共に、それらの成分が、親に対し、養育行動を促す作用を持つかどうかを検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

体臭は、体から発せられる化学物質が元となっている。それらの物質は、個体の年齢、性別、生理状態などにより変わるため、体臭は、そうした個体の情報を他者に伝える媒体にもなり得る。ヒト以外の哺乳類では、特定の体臭成分が、他個体の行動に影響することが知られている。ヒトにおいても、体臭が他者の生理状態や行動に影響を及ぼす例が報告されているが、着衣などを匂いの源として用いた研究が殆どであり、効果をもたらす匂いの実体が曖昧だった。本研究では、乳幼児の体臭成分同定した上で、その作用を明らかにすることにより、ヒトの養育行動を理解する上でも、ヒトにおける体臭の社会的な役割を理解する上でも重要な知見を提供する。

研究成果の概要(英文)：Parental caregiving is critical for the survival of our young and continuation of our species. In humans, visual and auditory signals from offspring have been shown to be potent facilitators of parenting. However, whether odors emitted by our young also influence human parenting remains unclear. In order to test this possibility, in the current study, we collected body odors from infants and toddlers, identified compounds that are emitted more from infants and toddlers compared to their mothers, and examined their influences on mothers' psychophysiological status. The results suggested that odors emitted by young indeed have an effect that facilitates mothers' caregiving behaviors.

研究分野：生活科学

キーワード：養育 Baby schema 乳児 幼児 内分泌 匂い 体臭 化学シグナル

養育は哺乳類において種の存続に必須の行動である。養育行動は、養育を与える大人の側が注目されがちだが、養育を受ける子の側も、大人から「可愛い」という気持ちを引き出し、養育行動を促進する素因を持つと考えられている。これまでヒトでは、乳幼児特有の容貌や声など、視聴覚や触覚を介した信号に養育を促進する効果があることが示されてきた。本研究では匂いに着目し、乳幼児期特有の体臭成分を分析すると共に、それらの成分が、親に対し、養育行動を促す作用を持つかどうかを検討した。本研究の内容は、一定期間公表を見合わせる必要があるため、詳細な報告書は、公開可能な時期になってから公開する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 岡本雅子	4. 巻 26
2. 論文標題 総説 味嗅覚に関わる認知処理: ヒトの心理・生理学的研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本味と匂学会誌	6. 最初と最後の頁 17-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 岡本雅子
2. 発表標題 味嗅覚に関わる認知処理: ヒトの心理・生理学的研究
3. 学会等名 味と匂い学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------